

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

公益財団法人 協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫
両団体理事長 半 田 晴 久
教育部会長 若 林 克 彦
両団体専務理事 清 原 淳 平

教育部会のお知らせ(第342回)

日時 平成30年6月29日(金)午後1時半～3時半
場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室
千代田区永田町2-1-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議題 1、最近の高等教育改革について想う
挨拶 若林克彦部会長(国士館大学元学長)
2、平成29年度教育部会の議論を振り返り、本年度の課題を
考える(その3)
解説 若林克彦部会長

報告 去る5月11日開催の、第341回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務めて行われました。まず、若林部会長より、「最近の高等教育改革について想う」と題して挨拶がありました。各大学で、若手研究者の支援策が広がっている。大阪大学は、若手研究者の任期を最長10年に延ばす。名古屋大学は、博士課程後期の成績優秀な学生に「学修奨励金」を支給する。東工大でも若手研究者支援のため「大隅良典記念基金」を創設した。大学教員のポストは競争率100倍の狭き門だが、国からの交付金は減少傾

向で、ポストは増やしにくい。短い任期付きのポストドクターでは、1～2年で成果が出るような論文しか出せず、斬新な研究ができない。任期延長はこのような弊害を解消しうる。また、資金不足で研究ができない事態も解消しうる。今後、優秀な研究者に対して、文科省が助成金を出す制度を検討しているほか、企業による資金援助も検討が進んでいる。

次に、「平成29年度教育部会の議論を振り返り、本年度の課題を考える(その2)」について、一同にて意見交換がありました。昨年度の議論の中で、課題になりそうな問題点は、①学力が不足している学生は、無理して大学進学させるべきではないし、優秀な人材は飛び級での入学を認めてもよい。質を向上させるのであれば、全員がある一定の年齢で横並びに大学に入学するというシステムでは無理がある。②欧米のように、入学してから猛烈に勉強し、卒業も難しくするシステムも研究に値する。入学試験のためだけに猛烈に勉強し、大学在学中はある種のモラトリアム期間というのでは、実社会に出て役に立たないのもうなずける。脳科学の見地から言ってもよくない。③日本の研究者の論文の質の低下の問題。質の低下は大学ランキングの低下に直結するだけに深刻な問題である。日本国内の通信ネットワークの整備遅れが、欧米の学者が日本の学者の論文引用をあまりしない原因になっているとすれば、その整備が急がれる。また、先月AIの研究でアメリカと中国が共同研究を活発に行っているとの記事が紹介されていたが、中国のように大学発の研究が多くを占めているのに比べ、ここでも遅れている。これを解消するにはやはり質の向上ということを、抜本的に考え直す必要がある。

★資料代 会員は五百円に ご協力御願い申し上げます。

次回、6月29日(金)の教育部会に

出・欠 (いずれかに○印)

事務局宛FAX 03-3507-8587

御芳名

貴方様のFAX

電話

テロ対策への警備からの要請上、会員に限ります。非会員で
参加希望者は、2日前までに履歴書をご提出下さい。

(その場合の当日会費は二千円となります)

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

協和協会事務局 ☎03-3581-1192 時代を刷新する会事務局 ☎03-3272-4320
HP <http://www.jidaisassin.jp> Eメール kiyohara@jidaisassin.jp